

令和 8 年第 3 回（6 月）筑紫野市議会定例会
第 4 回総合スポーツ施設の整備に関する特別委員会

○日 時

令和 8 年 6 月 22 日（月）午後 1 時 00 分

○場 所

筑紫野市議会 第 1 委員会室

○出席委員（10 名）

委員長	横尾 秋 洋	副委員長	宮崎 吉 弘
委員	田 中 允	委員	辻 本 美恵子
委員	高 原 良 視	委員	坂 口 勝 彦
委員	段 下 季一郎	委員	前 田 倫 宏
委員	赤 司 祥 一	委員	春 口 あかね

○欠席委員（1 名）

委員 白 石 卓 也

○議長（1 名）

原 口 政 信

○傍聴議員（5 名）

議員	上 村 和 男	議員	西 村 和 子
議員	山 本 加奈子	議員	檜 木 孝 一
議員	吉 村 陽 一		

○出席説明員（4 名）

企画政策部長	宗 貞 繁 昭	企画政策課長	中 尾 泰 明
教育部長	濱 崎 博 文	文化・スポーツ振興課長	安 樂 鉄 平

○出席事務局職員（3 名）

局長	杉 村 真 子	課 長	高 木 美智子
係 長	本 田 潤 平		

開会 午後 1 時00分

○委員長（横尾秋洋君） 皆さん、こんにちは。それでは時間になりましたので、また、委員おそろいですので、ただいまから第4回総合スポーツ施設の整備に関する特別委員会を開会いたします。

まず、5名の議員が委員会の傍聴に出席してありますので、先に報告しておきます。

続いて、本特別委員会に一般市民の方1名より委員会審査の傍聴の申出があっております。これを許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（横尾秋洋君） 御異議なしと認めます。よって、傍聴の申出を許可することに決しました。

ここでしばらく休憩いたします。

休憩 午後 1 時00分

再開 午後 1 時01分

○委員長（横尾秋洋君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

では、会議に入ります前に念のため申し上げますが、会議中、発言のある方は挙手をしていただき、委員長から指名を受けた後に、マイクのスイッチを押して発言していただきますようお願いいたします。

また、携帯電話等をお持ちの方は、電源を切るかマナーモードをお願いいたします。

それでは、議題、総合スポーツ施設の検討に際しての課題についてですが、前回、皆様から様々な意見を出していただいた上で、レジュメにも書いてありますが、四つの項目を課題として絞らせていただきました。その課題を踏まえつつ、執行部から前回の委員会の質疑等に対する説明をしていただきますので、お願いいたします。

宗貞部長、紹介と説明をお願いいたします。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 改めましてお疲れさまでございます。企画政策部の宗貞です。まず、本日の出席職員を紹介させていただきたいと思います。

企画政策部企画政策課の中尾課長でございます。

○企画政策課長（中尾泰明君） 中尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 教育部のほうから紹介をさせていただきます。

○教育部長（濱崎博文君） お疲れさまです。教育部の濱崎でございます。よろしくお願いします。

○文化・スポーツ振興課長（安樂鉄平君） 文化・スポーツ振興課の安樂です。どうぞよろしくお願いします。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 今、委員長が言っていたとおり、6月8日の前回の特別委員会の要点を整理させていただいております。資料については別ファイルです。

それでは、6月8日開催分ということで、論点整理を執行部のほうでさせていただいております。様々な意見がございましたけども、全部で11項目について執行部の考え方というのを整理しております。

表の見方ですけど、まず番号、議員の皆様から出た意見、そして一番右側に、市としての対応方針・考え方を示させていただいております。

まず1番目の御意見としては、学校の体育館、グラウンド周辺の環境整備、コミュニティセンターでのスポーツ環境の整備など、身近な場所でのスポーツを推進すべきではないか、あるいは、地域のスポーツができる施設をどう考えていくのか、グラウンドゴルフなどの高齢者のスポーツ施設も工夫すべきではないか、こういうふうな御意見が出ておりました。

これに対する市の対応方針といたしましては、地域でのスポーツ施設の整備につきましては、スポーツ推進計画の基本目標1、スポーツ施設の充実・環境の整備の中で、コミュニティセンターでのスポーツ施設の確保や小中学校の設備等を計画的に整備することなど、身近な場所でのスポーツを楽しむことができるよう、スポーツ推進計画で取り組むこととされていると。具体的には、地域の要望等を踏まえ、公共施設の改修時等に個別に検討を行うことが考えられますというところでございます。

2番目の御意見として、バスケット等の専門的な施設は大会ができる程度の施設が必要ではないか、大会としては市や筑紫地区、県、全国大会など、どの程度の大会を想定しているのかと、こういう御意見がありました。

これに対する考え方としては、スポーツ大会の開催については、観客席数や整備するコート面の数、コートを何面整備するのかによって施設の規模に影響は生じますが、基本的に競技コートの広さというのは変わりませんので、全国大会であっても開催は可能だと。なお、プロバスケットボールになると客席数が5,000以上というような条件がつきますので、

そこまでの規模は想定していませんというところでございます。

3 番目です。バドミントンコートを増やすなど筑紫野市らしい特徴を持たせたらいいのではないかなというような御意見です。

これにつきましては、施設の活用方法あるいは機能についてはサウンディング調査、あるいは設計のときに改めて検討することになるというところなんです。例えば今の想定では、メインアリーナでバドミントンコートであれば12面ほど、今、農トレで8面ほどですけども、12面ほどができるぐらいの施設について想定しているところです。

それから4 番目、どのくらいの規模が必要なのかをみんなで検討すべきという御意見です。

これに対しては、想定される施設の規模については、スポーツ施設整備基本構想に記載をしているとおりでございます。近隣市の状況あるいはアンケート調査を踏まえて、おおむね1 万平米程度を想定していますということです。具体的には、整備基本構想に載っておりますけども、メインアリーナであれば公式のバスケットコートが2 面とか、あるいは武道場とか、ヨガとかができる多目的運動室、こういうものを執行部としては想定していると基本構想の中に掲げておりますというところなんです。

5 番目に、農トレ、筑紫運動広場、諸田グラウンド、カミーリヤをゾーニング化して、健康・スポーツゾーンとして検討したらどうかという御意見です。

これについては、サウンディング調査に入る前に、基本的な考え方、こういうふうな土地利用の考え方を持っていますということはお示ししたいと考えております。

6 番目です。文化会館、生涯学習センター、カミーリヤなど今後改修が必要になるけども、体育館の施設の中に統合すべき機能はないか検討すべきではないかという御意見です。

これについては、公共施設等総合管理計画に基づいて、基本的に複合化とかあるいは集約化というのは考えていません。総合管理計画の中では、現在の利用状況から余剰な施設とか、あるいは重複した施設はないというふうに書いておりますので、統合ということは考えていないところでございます。なお、文化会館につきましてもこの計画の中で、予防保全型の管理を行うことにより長寿命化を図ることとしておりますというところなんです。

7 番目です。市民の声が活かされているのか、地域の人にとって必要な施設を精査したほうがいいのではないか、その上で大会の開催ができる施設を整備すればいいのではないかなというところで、市民の意見に関しての御意見でございます。

これにつきましては、市民からの意見の反映につきましては、推進計画策定時のアンケー

ト調査、あるいはスポーツ団体からのヒアリング、スポーツ審議会の審議、それからパブリックコメント、こういうものを経て、市民の意見については聞いておりますというところ
です。

8 番目に財政計画の話です。財政計画との整合が取れていないのではないか、財政上どこ
まで投資ができるのか、ネーミングライツなど財源を検討すべきではないか、こういう財政
に対する御意見でございます。

市の考え方としては、財政面での検証は、サウンディング調査後の施設の規模とか事業費、
これを想定した上で行いますと。なお、ネーミングライツなどの財源の確保策も、サウン
ディング調査で民間の意見を聞きたいと考えていますというところです。

それから9 番目の結論を急ぐ必要はないという御意見です。

これに対しましては、令和7 年度にアンケートや審議会を経て推進計画、整備基本構想を
策定しておりますので、今年度、令和8 年度の取組として検討しているものですと。その検
討状況は適宜、議会にもお示ししながら進めていきたいというのが市の基本的な考え方
でございます。

10 番目に、令和8 年度予算に計上しております総合体育館整備検討事業の進捗をという
ことでございます。

これにつきましては、現時点で予算の執行予定はございません。できる限り職員で対応し
て経費削減には努めていきたいというところです。

それから最後に、部活動の合同開催を見据えた施設にすべきではないかと。

こういう意見については、施設の活用の部分になりますので、これにつきましてはサウン
ディング調査後に検討していきたいというところでございます。

いろいろ御意見をいただきましたけども、市の考え方として整理をさせていただいたも
のでございます。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 今、部長のほうから説明がありました。そういう意見を聞きなが
ら前回、大体4 項目に絞り込んで、財政上の負担はどうか、どのくらいの規模なのか、
また、どういう使用によってその費用を賄うのかとかいうことですね。

それから、地域でのスポーツの在り方ということで、もっと地域の人たちが、地域は地域
でやれるようなことをすべきではないかという意見が出ておりました。

それからもう一つは、スポーツ施設は、さっきも出てきましたけど、大体どのくらいの大

会の規模を狙っているのか、大体どういう種目のスポーツを目指しているのかというような話、それから、市が全般的に持っている公共施設の長寿命化計画に基づいて、文化会館とかいろんな形の在り方がどうなのかということ、これは財政計画につながっているんだろうと思いますけども、そういう議論がありました。

今、部長のほうから説明があつたり、前回のことをまとめた中で、今から皆さん方の御意見と執行部との考え方を調整していきたいと思います。皆さん方から何か御意見があれば、今の段階でお聞きしておきたいと思います。

坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） 説明ありがとうございました。この6番目ですね、公共施設等の管理計画に基づき、基本的に複合化や集約化は考えていないと。これは文教福祉委員会のときからずっと議論がされていたんですけど、もう全くもって、文化会館は文化会館で、長寿命化計画にのっとってずっと存続させていくという流れで間違いないということで、ほかの施設もどんどん古くはなってくるんでしょうけれども、今の段階では体育館は体育館として、きちっと分けて考えていかなきゃいけないということによろしいんですね。

○委員長（横尾秋洋君） 関連。春口委員。

○委員（春口あかね君） 今の坂口委員のお話の中で、予防保全型でそれぞれどれぐらいもつ試算がされているのか、ちょっとお伺いしたいなと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） まず坂口委員の御指摘ですけれども、体育館は体育館のみでということです。当然ながら今後、子どもの居場所であるとか、そういう新しい機能を追加しようということはありますけども、機能をどこかに持ってくると、集約するとか複合化するとかそういうところはないので、体育館は体育館のみで考えていくということになるかと思います。

それから、文化会館がどのぐらいを今後見込んであるのかというところですけども、それについては今後ですね。ちょっと体育館の議論とは外れますので、この場で具体的に答えることができませんけども、施設の長寿命化を図るために文化会館は予防保全型でやっていくというところで、じゃあ具体的にいつ頃、何をどうするのかというのは、今後検討しながらやっていくことになるだろうと思います。具体的に今お答えすることはできませんが、今後検討していくということになるんじゃないかなと考えています。

○委員長（横尾秋洋君） 何かありますか。

坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） 1万平米と今あったんですけど、以前4パターンぐらいあって、このぐらいの規模だったらこのぐらいの大きさですよとかいう案が出ていたと思うんですけど、1万平米はどれに値するんですか。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 体育館の1万平米は、整備基本構想の17ページに載っていますけども、メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、多目的運動室、トレーニング室、これを含めて1万平米です。全て含んで1万平米ということです。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員。

○委員（春口あかね君） さっきのお話の中で、予防保全でやっていくというふうにおっしゃっていて、その中でまた農トレみたいは、ここは改修するとかかなり予算がかかってくるんじゃないかみたいはところが多分出てくると思うんですけど、そうなった場合、文化会館は文化会館で考えていくのかというのが分からないと、そもそもの別で考えるという考え方ができるのかなと思っています。財政上の話になると思うんですけど。

それをちょっと伺いたいというのと、あと別のところで、7番のパブコメ等によりヒアリングを行っていますというふうに書かれてあると思うんですけど、前回も多分お伝えしたと思うんですが、そのパブコメによると市民のニーズは、気軽にスポーツができる場所というふうに要望をいただいていたと思うので、そのことに関して。スポーツ推進計画の中で遊具広場の例示がされていると思うんですけど、その中で、例えば体育館に併設する公園を造るとするのなら、総合公園との差別化をどうやっていくのかがちょっと気になりました。

あと、プールは造る必要ないというふうにおっしゃっていたと思うんですけど、お金もかかるし、民間にお願いしていくだろうというふうにおっしゃっていたと思うんですけど、プールのことも含めて、子どもが夏休み遊べる場所がないということで、スポーツ施設、総合体育館を造るのに、やっぱり競技団体だけじゃなくて市民が使いやすい施設にしていくべきだと思うんですが、平日利用の観点とか、子供が自力で行ける範囲に、スポーツ施設だけじゃなくて、どれだけ居場所の機能を配置できるのかというのがちょっと気になりました。

○委員（高原良視君） 委員長、ちょっとよかですか。今出されている分を執行部のほうから説明を受けましたよね。受けた分で分からないところとか、いろいろ聞きたいところを含めて議論されるのか。今、話を聞いていたら、この内容について、どうなるの、こうなるの

という、大きな質問の中での執行部と個人のやり取りというふうになっているから、そういう分は、委員会やったら何か議題を設けながら、委員間で十分議論とかするほうがいいんじゃないかな。何か説明の、質問とがね、先に、分からないところが今あったから、それかなと私は思っと思ったら、もう直接、執行部と委員のやり取りだけでどんどん進みよるからと思って。どんなふうにされた方がいいのか。

○委員長（横尾秋洋君） いや、一応説明を一通り受けて、それに対する各委員の分からないというか質問したいなということがあれば、ちょっとそれを先にやって明確にしておいて、次の段階に移りたいなと思っていたんですが。

例えば今、坂口委員の分は、このスポーツ施設というか、体育館だけをやっていくのか、ほかの文化会館とかそういう形の他の種目とは並行しないんですねというようなことと、春口委員のは、前回の辻本委員がよく質問された、地域のスポーツをどう取り入れていくのか、総合体育館の中にそれまで含めてやっていくのかという形があったので、それは前回のときに、地域は地域でコミュニティの単位でやっていきますよ、そして総合体育館は今度は総合体育館だけで検討していきますよという形で、大体一定の整理ができつつあったと思うんですけど。

そういうことで、まだ私が言ったことに対して春口委員のほうから何か尋ねたいことがあったら、もう少し言ってくれませんか。

○委員（春口あかね君） 財政上の話だけ伺いたいと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 御質問の趣旨としては、文化会館を今後どうするのかという、急に建て替えとかがあるのであれば、それも含めた財政上の検討をしておくべきじゃないかというような御質問でしょうかね。

公共施設等総合管理計画の中では、文化会館だけでなく、カミーマヤも生涯学習センターも全て含めて、これらの施設は予防保全型でやっていくという方針を出しています。ですから、公共施設等総合管理計画はあくまで市としての方針を出しています。じゃあ個別にどうなるの、何を優先的に改修していくのというのは、ちょっと個別になるけども、一番上の計画ではそれぞれ予防保全でやっていくということを示しております。ただ、体育館は今の施設の中で予防保全ではできないと。広げることが必要なので予防保全はできないので、今回のように提案をさせていただいているというところでございます。

ですから、将来はどうかという問いに対しては、将来は今の施設を改修しながら使っ

ていきますと。文化会館、生涯学習、カミーマヤ等々はそういう方針で今取り組んでいますというところがございます。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員。

○委員（春口あかね君） 不勉強かもしれないですけど、何かランクというか評価基準みたいなものがあるじゃないですか。それには、この三つの施設は今のところ該当しないという理解で大丈夫ですかね。（「すみません、何のランクですか」と呼ぶ者あり）例えば、もうここは改修できないとかっていう評価が個別計画の中に多分あると思うんですけど。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 劣化度の調査という形では、個別に評価をしながらやっています。やっぱり一番危険な状態であるものからやっていこうというところで、毎年評価をしながら取り組んでいる状況です。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員。

○委員（春口あかね君） 今のところ大丈夫というところで評価されているということですかね、その三つは。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） そうですね。躯体自体は大丈夫なので、改修しながら使用していくというところがございます。

○委員長（横尾秋洋君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 2点ございます。

まず、8項目めの財政計画との整合についてであります。今、第四次筑紫野市財政計画に基づいて運営されているかと思えます。これは令和9年度までであります。その中で具体的に目標が掲げられています。実質収支で黒字を継続することであるとか、実質公債費比率は6%にすることとか、地方債残高は230億円以下にすること、基金残高は130億円以上となるようにすることということであります。

そうした中で建設が今、体育館が検討されているんですけども、そもそもこの計画に入っていないと思うんですね。そうした中で今、サウンディング調査後とかに総額事業費の想定を行いますというふうにしているんですけども、そもそも財政計画の中で上限というのは明らかにあると思うんですね。じゃあ体育館を200億円で建てますとなりますかという話ですね。だから、その上限は今、市としてどういうふうに考えてあるのか。

また、補助金に関して、国と県と協議をしながら検討していく旨の説明が3月の予算委員

会の中でございましたけども、具体的な補助金をどのように考えてあるのかもお示しください。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 財政計画の上限はどこぐらいまでかというところですが、これについては次期総合計画策定時にまた財政計画をやり直します。そのときに体育館を入れて、うちの財政上、耐え得るかどうか、そこら辺を見ていくことになるかと思っています。具体的には、今、目標で上げております起債残高とか基金の残高、これがもし仮に建てるとするならば耐え得るのか、例えば起債を毎年1億円ずつ返していったときに、起債の借入れを幾らしたときに、今の起債残高がいつまでに幾らという金額が耐え得るのかどうか、そういうふうな検証をやる、そのためにもやっぱり場所と、どのくらいの規模のものを建てようとしているのかという想定をまずしたいというところがございます。その金額を想定した上で、それが耐え得るのかどうかの判断を検討していきたいというところがございます。（「補助金は」と呼ぶ者あり）

○委員長（横尾秋洋君） はい、部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 補助金は、いろんな補助メニューがありますので、どの補助メニューが利用できるのか、そこは今後、財源の確保に向けて努めていきたいと思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） よろしければ、今検討されている補助金、できたら具体的なメニューを挙げてもらえれば、こちらでも調べるので教えていただきたいです。

○委員長（横尾秋洋君） 課長。

○企画政策課長（中尾泰明君） 現在検討している補助メニューでございますけれども、今想定をしておりますのが、一つに社会資本整備総合交付金でございます。また、そのほかにも、学校施設環境改善交付金、地域未来交付金などが活用の余地があるものと考えておりますので、これらの活用について調査研究をさせていただいている状況でございます。

以上でございます。

○委員長（横尾秋洋君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 関連にもなるんですけれども、次、10番目の総合体育館整備検討事業の進捗についてであります。この回答では、今は特に執行していないということでありすけれども、これは3月の予算で可決をしてあって、その当時の説明では何か図面を作成したりであるとかというふうな話があったと思います。なので、今後、国と県との協議という

のも、こういったところの課でやっていくのか、また、今はないとしても、今後どのようなスケジュールでこの事業を進めていくのか、説明をお願いいたします。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 前回お示しした資料でございましたら、まずは場所を決めて、サウンディング調査して、財政計画の検証をとというような流れの中で、もうちょっと詳しい図面がとか、きっちりした図面はできないにしてもイメージ図みたいなのが欲しいとかそういうことがあれば、その予算を使うこともありましようし、県と国と調整が必要になれば、その中から旅費等を使って、予算を使ってやるということも考えられますが、今の段階でいつ頃何をするというところははっきりしていないと。こういう検討状況を見ながらというところになるんじゃないかなというふうに思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） そうした中、サウンディング調査という言葉がずっと出てきていますけど、結局、これが前回の4月の段階で4か月ぐらいでしたかね、かかるということで、現状は今どういった段階なのかもちょうと教えていただきたいと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） サウンディング調査につきましては、まず場所の設定等が必要になりますので、できればこの会議後に動き出せばなと考えています。まず、本日でできれば場所の話あたりもさせていただきながら、サウンディング調査に今から入っていくことができればなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 工程表をちょっと出してくれませんかね、ここに。ああ、出てきた。

赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） 前田委員のに関連しているんですけど、まさに今回の回答に、かなりの数サウンディング調査という言葉が出てくる中で、今、共有させていただいた④、私はサウンディング調査は用地に関してのみ行うものだと思っていたんですね。3番で用地の評価・選定をして、その選定用地についてサウンディング調査みたいな意味かなと思っていたんですけど、今回の資料、例えば3番、バドミントンコートを増やすなどという項目に関しては、施設の活用方法や機能面についてはサウンディング調査や設計段階で検討という形で、要はサウンディング調査というのはどこまでのことを調査するのかというのを改め

て教えていただけたらなと。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） この表の米印のところに、サウンディング調査ということで書いております。市有地とか公共施設の活用の検討段階で、民間事業者のアイデアや市場性を把握する調査であり、事業手法の提案とともに、財政負担の軽減策とか配置計画、スケジュール、そういう提案を受けると。ほかに申し上げますと、維持管理とか運営の方法ですね。どういう形の運営が一番いいのかとか、あるいは市として子育て支援施設あたりもこの中に入れられたらなということなので、民間の人から、こういう子育ての施設の使い方がありますよとか、そういう提案がいただけるかというのかなと。いろんな意見があるかと思えます。特に今であれば、原材料費の高騰で今後の見込みはどうなのとか、そういうところも含めて聞くことができるのではないかと考えております。

○委員長（横尾秋洋君） 赤司委員。

○委員（赤司祥一君） 別のページを今、共有させていただいたんですけど、先ほど説明の中で1回出てきました基本構想の17、18ページです。この18ページで言うと、今ある案が下段に4種類あって、先ほど坂口委員からの質問でもあったと思うんですけど、この四つの案は、総合体育館部分は全部1万平米で固定で検討していると思うんですよ。ということは、例えば客席数が1,000席であるというのはどのプランになっても変わらないというような今計画かなと思うんですけど、そのサウンディング調査の結果、この1万平米の総合体育館部分もまだ変わり得る可能性はあるということで間違いないでしょうか。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 言われるとおり、その中身自体は今から変わり得るけども、今の案としては、1万平米の延べ床を備えた体育館を造りたいという市の思いがあると。それをするとこのぐらいの面積が要するところだけですね。だから、あとはサウンディング調査等で当然ながら変更というのはあり得るところになります。

○委員長（横尾秋洋君） ほかに質疑はありませんか。

段下委員。

○委員（段下季一郎君） すみません、この意見の一覧の1の私が出したところです。私の聞き方がよくなくて、ここに反映されていなかったの。前回議論でちょっとしたのは、立地適正化計画を今市がつくっていると思うんですけど、大牟田の場合はそれをつくって、それに基づいて都市機能の誘導区域とか居住誘導区域とか設定して、それで国の補助金を活

用していたんですが、別の人の回答の中で、集約化とか複合化とかは考えていないという話なので、この補助金は使わないんですかねというのをちょっと。使うことが難しいのかなというのをお尋ねしたいと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） もし立地適正化計画が使えるような補助金があれば当然ながら使う方向で検討はしたいと思います。今の段階で立地適正化計画による補助金をもらうというところは想定はしておりませんが、使えるものは使っていくという。（「使えるものはですね」と呼ぶ者あり）

○委員長（横尾秋洋君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 先ほど赤司委員からも意見が出たんですけれども、前回意見を出したときのまとめというところで、論点整理11項目の中の5か所にサウンディングがあって、例えば3番目の施設の活用方法や機能等については、サウンディング調査や設計段階で検討すると。だから先送りですよ。その次は5番目にもサウンディング調査、ゾーン化することについて基本的な考えは、サウンディング調査のときに入る前に示したいと。でも、あらかじめこのゾーン化することの内容をみんなで話し合っておかないと、サウンディング調査には出せないということなのかなと思っていたら、後の8番の財政のところでは、財政面での検証はサウンディング調査後になっているし、その財源の確保策もサウンディング調査の中で考える、意見を聞きたいと。

最後の施設の活用についてはサウンディング調査後にということで、前と真ん中と後、全てにサウンディング調査があって、実際みんなで話し合いたいことの中身がサウンディング調査の中で、前にあるのか、中であるのか、後にしたほうがいいのかというところが非常に曖昧なまとめになっているんじゃないかなと、今日のこの論点整理を見ると。実際のところ、今日は場所の設定をしてもらわないとサウンディングにも出せないということで、とにかく場所を決めてもらいたいみたいなニュアンスが、さっきのお話しぶりでは。じゃあ、この今までの中で論点整理されているものは、どのタイミングで私たちが話し合えばいいのかというのが非常に分かりにくいんですけど。

それは、せっかくみんなで話し合った中での論点整理を一つずつ話し合っていくって、その中でどういう具体的なというか、おぼろげながらもこういうものがあるね、必要だねという話になった暁にようやく、じゃあ必要な土地はどれぐらいか、必要な土地をどれぐらい確保するかという話になっていくと思うのに、全てのことが、まず土地を決めてもらわないとサ

ウンディング調査にも出せないんだという話で、その順番が非常に分かりにくい、曖昧なままで、この会議で何を話し合えばいいのか見えないんですけど。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 私たちも、その場所について話がありますが、まずイメージ、ゾーニングの話になりますけども、これについては、例えば場所をここにするとするならばその場所だけでやっていくのか、あるいはその周りをちょっと取り込んでやっていくのか、そういう考え方は示した上でサウンディング調査、民間のほうから知恵をもらうということが必要になってくるんじゃないかなというところで、ゾーニングの関係をサウンディングの前にお示しすべきだろうというところでございます。あとはサウンディング調査でいろんな民間の意見を聞きながら市としての意見をまとめていきますということになりますので。

場所を決めていただくのは、私たちからやっぱり提案すべきだろうと思いますので、ぜひ私たちのほうから、その場所をここにこういうふうな形で今考えていますというところで、サウンディング調査のほうに入らせていただければなというふうに思っております。

○委員長（横尾秋洋君） 辻本委員、いいですか。

○委員（辻本美恵子君） ちょっと考えます、持ち帰りを。

○委員長（横尾秋洋君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 結局この会議自体が、我々がこの特別委員会でまとめたことが、みんな執行部に受け入れられるのか、それとも、今、場所に対しても、3か所ぐらい市のほうから提案してもらうて、それに対して我々が検討していくのか、そこらあたりがはっきり見えないんですよ。どのような方向で我々が進めていこうとしているのか、この会議が。

○委員長（横尾秋洋君） 今までの中で、場所まではまだ特定しないよという前提の下で今日まで来ていますから、今日の段階は、皆さん方が今まで検討したことの中で、不明な点、もっと確認しておきたいなという点があって、それを解決したら次の段階のステップに行けると。そういうふうな段階にしていますから、今の場所という形は次のステップということで、今、辻本委員とか皆さん方がいろんな意見があったのを一回整理をしないと、次の場所はどこがいいですよというのに入っていけない。できれば今日、その辺まで行ったほうがいいのかもしれませんが、今はそういうレベルで話をしています。

高原委員。

○委員（高原良視君） 場所的なものをする就非常危険だね。こんな危険なことないよ

ね、進めていく上で。対地域があるからね、そこを言って、やり損ねたら大変なことになるし、中途半端にやったら地域問題として大変なことになると思う。何かえらい急いでね。もうちょっと議論ができんのかなと思ひながらですね。執行部と議員の個々とやり取りしてもならんし。田中さんがどこまでどうのこうのって言うばって、ここは議論する場やもんな、最終的には。今日の執行部の答弁の中にも、市長答弁の中にも、「今後議論を進めていきます」というふうな話やったが、今日の答弁とここの場の部分は十分違うもんな。何かちょっと進め方ももう少しこうね、できんですかね、やっぱり、含めて。何かえらい急ぎよんですよ。もう場所提供どうのこうの、場所はどこだ、どこだ、どこだって。

場所はほら、金額とか財政的なものをするための分については地域を特定せんでもできるやん。どがしこの分で、どの程度の面積があつてというのは。あとはそれに応じた地域的なものも出てくるとやから。総金額というのは当然ながら算出はできるはず、面積的なものは。いろいろ前のときも4案ぐらいあつた中で、財政的なものの総額が出とったよな。用地費は幾らかちゅうたら、「用地費は、あそこの武蔵の交差点のところの値段です」とかいう言い方をしとった。あんな金額のところで、筑紫野市の中で、そういう金額の中で選ぶことはまずないなと思ひましたんですけど。何かこう、急ぐ分がね、特に急ぐ。

そして何か一つ出てきていないのは、地域スポーツは出たけど、前のときも、ほかのスポーツの施設の分についてはどう考えているのというのは、大きく意見が出ていたんじゃないかなと思うんですよ。いろいろ野球であつたり、サッカーであつたり、それから、プールは私は個人的には別ですが、プールの意見も出ましたよね。そういう他のスポーツの分については、ここの中の議題に前には出たと思ひていたけど、今日はちょっと出なかったけど、それはもう別ちゅうてから、はねられたんですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 今、今日は、書いているように、前回のを一応まとめたとして、財政上の負担、財源をどうするのかという形やけど、今、物価高騰とか様々な形があるから、今の段階じゃ出せない。サウンディング調査した中で、要するにどういう施設を造るかということによって、金額は出てくるし、そしたら、そのスポーツ施設の面積にしていって、その該当するところに、例えば駐車場がどれだけ要る、そうするとどういふ土地が必要ですよというのが次の段階で出てくるんだと思ひますよね。

それから、前回でもして、気軽にスポーツができる、その分をどうやるか。それは地域のスポーツの在り方という形にして、執行部からは、それは地域コミュニティの範囲内で、そういう形でスポーツ振興計画の中にうたっていますよというのが出てきとる。

それから、問題はスポーツ施設の規模をどうするかという中で、どのくらいの大会までを見えていますかって。先ほど宗貞部長が言ったのは、プロのバスケットボールの試合までは想定していませんよと。そうすると5,000人、1万人というような観客が要るからそこまではできない。しかし、そこそこの大会はできるような感じという形でしょうけども、それを決めるのをどういう形でやっていくのか。それはやっぱりサウンディング調査をやって民間の企業の知恵を借りて決めていこうなというような意見があります。

あとのこの4番目の公共施設というのは、少子化対策でといたら、この体育館とは別の形で考えていきますよと、一応方向性としては出ていたので。（「他のスポーツはどげんだったんですか」と呼ぶ者あり）要するに他のスポーツは、もうそれはそれぞれに考えて。今回のスポーツ施設の整備に関する特別委員会というのは、これは総合体育館のための特別委員会ですよということで大体前回のときにはまとまったんじゃないかなと思ったんだけど。

○委員（高原良視君） 違うですよ、スポーツ施設ですよ。体育館のための特別委員会じゃないです。スポーツ施設全体を考えた上で、結果的にそういうふうになるのか、そここのところはみんな共有していたと思っていたけど、皆さん共有ができていなかったかな。

○委員長（横尾秋洋君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 基本的に、この特別委員会が何を求めてどのようにしていくのかって。執行部がある程度の素案をつくって提案したことに対して、我々が、さっき言いましたように、候補地が3か所、サウンディングかな、アンケートかな、その調査の結果、3か所ぐらい出てきましたと。これが予算がこれぐらいかかりますよと、用地だけでもね。そういうことをもう少し詳しく提案してもらわんと、議論の仕方がないんよね、僕としてはですよ。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） 事業計画の第8章の22ページのところ、ここに、さっき部長が言われてあった1万平米のところで、四つの案が出ているんですよね。1万平米から1万5,000平米で、85億円ぐらいで、総合体育館と駐車場を立体的に整備になっているんですよ。もうそれに進めていきますと今言いんしゃったとですよ。ということは、もうこれに基づいてやっていかないかと。それじゃ、その1万平米は具体的に土地は今どこか、その候補としてあるのかということも聞いていないので。もう今、1万平米ぐらいと言ってあった、なら、その1万平米以内で何か考えていかないかんとかなと思うんですけど。

○委員長（横尾秋洋君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 坂口委員、今言われた分は、向こうが、執行部が1万平米と言ってきたから、なら、それに基づいて議論じゃなくて。そしたら特別委員会の意味もなくなるやない。特別委員会だから、みんなで、じゃあ、それでいいかどうかということを含めての特別委員会やろ。

○委員長（横尾秋洋君） 坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） 1万平米となったら、今言ったグラウンドとかないんじゃないかなと思ったんですよね。（「総合体育館だけやろ、1万平米というのはな」と呼ぶ者あり）

○委員長（横尾秋洋君） 副委員長。

○副委員長（宮崎吉弘君） るる、前回から今回で4回目ですよ。話を聞いていると、どうも何かサウンディング調査という認識が皆さんばらばらで、違っていると思うんですよ。先ほど田中允委員が言われました、土地の案がありますと。それに対してサウンディング調査というのはやっぱり、ざっくりやったときに工事費がどれぐらいかかるかとかいうことを調べるのがサウンディング調査なんですよね。

当然、建物ができる、こういうパースができました、平面図ができました、そういうことになってくると、本ボーリングでコア抜きをして、きちんと調査せんといかんわけですよ。ただ概略として、こういう建物が要するというところの候補地を執行部から提案していただいて、それで適しているかどうかを調べるのがサウンディング調査であって、どうも何か話を聞いていると捉え方が違うのかなという感じがしたので、ちょっと発言させてもらいました。

なので、候補地というか、こういうところがあります、こういうところもありますということをもまず説明していただいて、そしてその中で、こういう建物が建てれるとかいう議論するのが先決じゃないかなと思ったんですけど、いかがですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 今副委員長が言いようことは、この特別委員会は体育館の整備のための特別委員会という限定をつけた発言かな。（「いやいや、そうじゃないですよ」と呼ぶ者あり）今そう聞こえた。

○副委員長（宮崎吉弘君） そうじゃないですよ。だって、今まで何回も説明を受けてきたじゃないですか。だから、1万平米やったらこういう施設ができますよ、1万5,000やったらこういう施設ができますよって、それを調べるためにサウンディングをやるわけでしょう。高原委員は、何で急ぐとかがよう分からんと言いんしゃるけれども、順序立ててそうい

う調査をやっていないと、もう決まるものも決まらんようになっていくんじゃないですか。何のために特別委員会を開いたんですかねと私は思いますけど。

○委員長（横尾秋洋君） 赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） もう一回これを見ていただいて、今のお話を僕自身もちょっと整理したいんですけど。この左下、さっきお話しさせてもらったとおり、四つ今案が出ていますと。四つともに総合体育館はもう入っていますと。ここでちょっと何か、ここからずれ始めていると思うんですけど。僕はさっき高原委員が言われたのとちょっと違って、要は、総合体育館にプラスグラウンド小をつけるのか、でかいグラウンドをつけるのか、広場とかウォーキングコースまで入れるのかという、このB案、C案、D案というのの中に、野球とかサッカーとかっていうのが入っていると。だから、どこまで加えるのかという議論があるから、僕はそれを含めて、総合体育館以外の話も今回やっていると思っていたんですよ。

ただ、多分ほかの方が思っているのは、そもそもこのA、B、C、D、全部駄目だと。もう総合体育館を造ることすらバツみたいな案も最初出たので、それを今回のこの特別委員会で議論に含んでいいのかいけないのかというのが多分ばらばらなのかなと思っていてですね。そこを一回整理したほうがいいんじゃないかなという気がするんですよ。

○委員長（横尾秋洋君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） そもそも一番最初の特別委員会の際には、市としては総合体育館を第一に優先してやりますと。その中で面積に応じて、それらの付随する多目的グラウンド小であるとか、要は土地の面積によって変えていくと。あくまでも市としては体育館を優先で位置づけるという話だったので、それが一つですね。ほかのスポーツ施設よりかは先に議論するというのは当然のことかなと思ってはいます。なので、土地の面積によってどうなるのかというのは出してもらわんと、そこは分からんような状況かなとは思います。

○委員長（横尾秋洋君） 今意見を聞いたんですけど、もともと執行部としては場所を早く決めてほしいなど。そしたらどういう規模のものが建つかどうかという形をしまった。しかし、もともとこれはスポーツはあらゆるスポーツを絞り込んでいって、最終的に総合体育館という形になっていく。だから、最初から土地がありきでは議論しとらんから。

それは田中委員が言うように、ようやくこの段階に来たらどここの土地も、市が考えているのはどこがありますかと。また、それは新規取得するのか、いや既存のところでやるのか。例えば新規取得するなら、先ほど高原委員が言ったように、その辺の坪40何万円というところを基準とするんですかというような、いろいろ意見があったけど、一時はもう、土地

を買ってでもというような意見もあったと思うんですね。だから今、宮崎副委員長が言うように、そこまで来ているので。

皆さんちょっとヒートアップしていますから、5分まで休憩して頭を冷やして、次に進めていきたいなと思います。少し整理をその間しておきたいと思いますので、休憩に入ります。

休憩 午後1時50分

再開 午後2時05分

○委員長（横尾秋洋君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

今A Iに聞いたら、サウンディングとは、行政が公共施設の活用や事業化を検討する際に民間事業者から意見や提案を聞くための対話のことです。例えば公共施設の利活用、公園整備、遊休地の活用、P F I・P P P事業、まあ公園事業とかそういうことはここにはないですけど、やっぱり民間事業者の知恵を借りたいという形でやっていきますので、一番はどういう規模の体育館を造るのか、それに対してどういう立地がいいのか、どういう施設を、どういうふうな形にしていくのか、プラスアルファの施設をすとか、そういうのは民間の事業者からの知恵を借りたいというのが。これからすると、選定用地のサウンディング調査、4か月から5か月程度が必要です。これは選定用地のサウンディング調査で、あとはいろんな民間からの事業費用とか建設費用とか、こういうことも大部分は含まれるんだと思うんですけど。

もう一回ちょっと宗貞部長、その辺の考え方を明確にしてくれませんか。宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） サウンディング調査の時期といいますか、一つだけ、先ほどの資料の5番でサウンディング調査前に基本的な考え方をと。ここだけがサウンディング調査前にやりますというふうになっているのでちょっと誤解を生じているのかなと思いますけども、サウンディング調査するには、場所の選定を。ここで企業の皆さんの御意見を伺いたい。この場所を活用するならどんな活用方法がありますかということを民間に聞くということですので、まずは場所を決めて、この周辺、ここでというところを。

ここで聞いているのはゾーニング化の話ですから、そのゾーニング化というような基本的な考え方は、この土地に対してゾーニングをこうやってするんだ、ここの中でというところはサウンディング調査前に、市としての考え方は、この区域で何か考えられませんかという。この区域でというところはサウンディング調査前にお示しすべきだろうと。あとの

お金の話とか、土地利用とか運営方法とかそういうものは、サウンディング調査後に聞いた上で皆さんにお示しすることができるんじゃないかと。

ですから、その前と後ろの話はちょっと説明不足でしたけども、サウンディング調査前にするのは、ここの土地利用の利活用のゾーニング化とか方向性についてで、サウンディング調査前に市としての考え方を示して、それに対する意見を募るというような流れになるんじゃないかなというところでございます。

○委員長（横尾秋洋君） 例えば用地がA、B、Cとあったりしたときに、Aの土地でのサウンディング調査、Bの土地でのサウンディング調査、Cの土地でのサウンディング調査をしていくのか、いや、もう最初から1本に絞らんとできませんよというのかどうか、その辺の考え方はどうですか。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） その辺の考え方も含めて、できれば本日、土地の考え方ですね、前回お示ししていました選定の基本的な考え方と選定、ここの選定をした上で、この場所でサウンディング調査をするというような取組を市としてはしていきたいと。ですから、もしよろしければ場所の話をさせていただきたい。

○委員長（横尾秋洋君） それはもう、一つに絞り込んで。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） その話を今から差し上げたいと。

○委員長（横尾秋洋君） それを二つか三つかに絞り込んでやって……。ああ、それを今からやっていくんやね。意見を聞きたいと。皆さん、どうですかね。（「分からないところがあったので」と呼ぶ者あり）ああ、まだ分からんところがある。そしたら分からんところまで。
段下委員。

ちょっとその前に。今までずっと3回やってきた中で、今日4回目ですから、今までいろんな議論をしたことで大体分かってきたであろうという前提でしとるから、今日、今しているのは、もう一回まだ自分が腑に落ちないとか、もっとこれをどうしたらいいのかとか、そういう質疑があったら今の段階でやってほしいということで、今までのこの1時間やってきましたので。

段下委員。

○委員（段下季一郎君） 特別委員会が初めてなのでよく分からない部分もあるんですけど、今まで委員会でやってきたのは、何か提案があったことについて考えることが多かったので、どこに何を造るかの前の段階でいろいろ議論されている段階なので、用地の確保について分からないところがあります。

市有地だったら市が決めればもうそれで済むというか、上物の話だけだと思うんですけども、民間地、民有地を購入する場合は当然、ここの委員会に上がってくる段階ではもう、その先方の地主さんとかにお話を何か、決まってはありませんがみたいな感じで、ある程度候補となるところを複数だったりとか、何か話をして、まだ決まってはいません、候補対象地のうちの一つですみたいな感じで、先方にお話はしているから、こういうところに上がってきているという理解でいいんですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） まさに今の話が用地選定の基本的な考え方、今から私たちがお話ししたいところなんです。どうしてここの場所なのかというようなところですね。だからそこは後で話しますが、民有地の確保、民有地を改めて買ってやるのはちょっと難しいんじゃないかなと正直思っています。ですから市の土地の中で、できるところはどこなんだという議論になるんじゃないかなというふうに思っているところでございます。その辺の話を、説明をさせていただけたらなと。

○委員長（横尾秋洋君） ほかにありませんか。

高原委員。

○委員（高原良視君） 何度も重ねた言い方になりますが、今委員長が言われているように、土地の話ということになると、もうこの体育館の話ということで限定の特別委員会になります。そういうふうな形で、この委員さんが皆さんそういう意向ですか、もう少しスポーツ施設の分を議論をした上でか。結局もう、今度体育館すると七、八年かかるからね、当然ながら、あとのいろんなグラウンドであったり、いろんなスポーツ施設であったり他施設は、あと20年、30年後にしかならん。まあ要は私たちは死んでますけどね。そういう部分になる。そういうものも皆さん理解した上で、そこのところは確認した上で、この委員会で。みんな確認し合いしとかんといかんと思います。それだけの分というたら、併せて並行して議論していきますって、すぐできる話じゃない、筑紫野市の財力からするとね。この10万の財力からは。どこの市町村も一緒よ。幾つもの何でもかんでもできんから。そこのところだけは皆さん共有して持った上で、していただきたいと思います。

○委員長（横尾秋洋君） ほかに何か意見ありませんか。

体育館以外のスポーツの在り方というのは、前回、特に辻本さんのほうからいろいろと意見が出とった、地域でのスポーツ施設の在り方ということで、ここに書いとる地域スポーツの在り方という形で協議していったと。だから、これに対して再度、宗貞部長から、おさら

いで地域スポーツの在り方についてもう一度説明していただけますか。

宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） スポーツ全体の考え方は、このスポーツ推進計画の中に方針、方向性を出しております。具体的に申し上げますと、スポーツ施設の計画的な整備というところでは、先ほど申し上げましたけど、コミュニティセンターでヨガとかストレッチができるような運動施設を整備していきましようとか、あるいはウォーキングとかのために天拝山、宝満山の地域資源を生かしていきましようとかいうような、施設の整備については方針を出していると。

それと、いろんな施設があるじゃないかと。グラウンドがあるということについては、(2)で既設スポーツ施設の整備・改修をやっていきますと。基本的には、例えばグラウンドについては、今あるグラウンドを皆さんが利用しやすいようにやっていきますというような方向性で、利便性の向上を図っていくというような方向性を出しております。施設の整備についてはそういうふうな全体の方針を持って、その中でもやっぱり農トレの現状を見ると、体育館を優先的にやるべきなんだということを出していると。

だから全体の中の、やっぱり最初はこれだと。あとのグラウンド等は、今の施設を改修しながら利便性の向上に努めていきますというような考え方を持っています。

ほかにも、指導者、ボランティアを育成していきましようとか、生涯学習スポーツで、例えばスポーツイベントであるとか初心者スポーツの教室であるとか、障がい者スポーツの充実であるとかいうようなスポーツの充実も図っていきましようし、高齢者についてもしかりです。子供のスポーツについても、学校でのスポーツ教室の充実を図っていきましよう。

ですから、全体的なスポーツの方向性としては、このスポーツ推進計画の中に掲げております。このスポーツ推進計画の中にも、農トレの状況を踏まえて、体育館を中心に優先的に考えていきましようというのが、このスポーツ推進計画の中身でございます。これを踏まえて整備基本構想で、じゃあ体育館とはどのぐらいのものよというのが、体育館の整備基本構想で示しているというところです。これが今までの流れですね。

ですから、その体育館1万平米ってどこよということになりますので、どこの場所ならどういう施設が可能なのか、維持管理はどうなのかというのを民間のほうに聞いてみるところから次のステップに進んでいきたいということでございます。

○委員長（横尾秋洋君） 今、宗貞部長の説明がありましたが、それに対する何か質疑はありますか。

地域スポーツはこの整備計画に基づいて着々とやっていきますよと。今回は総合体育館に特化した形で議論を進めていきたいということです。これに何か異論があれば出してほしいなと思います。

辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 異論ではなく確認です。今、着々というふうに言われたなら、まあ大丈夫かなと思うんですね。体育館の整備は恐らく七、八年後になるので、その七、八年間を通して、それぞれのコミュニティの状況を考えながら、コミュニティ単位に整理していくというのであれば。

もともと、なぜこの意見を出したのかということ、アンケート調査で、市民のほぼというか大半が、地域、身近なところでの運動の機会を求めているというのが読み取れるわけですよ。少なくとも体育館を願っているような内容ではなかったというところで、やっぱり身近に歩いて行ける、あるいはちょっとした移動で行けるようなところを願っている。そのことが市民の健康づくりにもなる。例えばコミュニティで卓球をやっていて上手になったから本当の体育館のほうで何か大会に出たいねというふうに、だんだんステップアップしていくなら、それはそれでいいと思うんですね。でも基本的にはみんなが望んでいるのは、身近な、自分の居住地に近いところでの運動の機会を求めているということで、まずは皆さんに目に見えるような形で、「ああ、このまちはスポーツを基本にして健康づくりを目指しているまちなんだ」ということが分かれば、それでいいんですよ。そういうふうになっていけばいい。

その先に、やっぱり大きな体育館があったらいいねっていう話になっていけばいいなというので、まずは私は地域で、それぞれの住民のアンケートの結果を優先というか、大事にすべきではないかなというのでこの意見を出していて、ずっとそうなんです。ほとんどそういう流れで書いてもらっているの。

今の委員長がまとめた、着々とスポーツ振興計画にのっとってやっていただけるなら、そうなのかな、それもいいなというふうに思うんですけど、そうじゃなくて、やっぱり体育館だけをまっしぐらにというのであれば、これはそれが終わってからですよという話では……。 （「そういうことは一言も言っとらんよ」と呼ぶ者あり） 確認しています、発言の内容を。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） まさに言われるとおりだろうと思います。スポーツ推進計

画の整備のところの一つ目に何と書いてあるかというのと、より多くの市民が気軽にスポーツを楽しむことができるように、スポーツ施設の充実とか、あるいはスポーツ環境の整備を図って、そしてスポーツに関する市民満足度を向上していきましょと、向上を図っていきますと。ですから、いろんな今ある施設も含めて、コミセンの利用も含めて、やっぱりスポーツに関する市民満足度の向上、そのために取り組んでいくと。中でも、さっきの繰り返しになりますけど、体育館、農トレの現状を踏まえると、やっぱりここを優先的に検討すべきじゃないかということでの御提案でございます。

○委員長（横尾秋洋君） 田中委員。

○委員（田中 允君） だから今説明を受けたように、やっぱり農トレがもう耐震構造上、期限が来とるから、あそこを今後どうしなければ、壊すか、またはリフォームするか、そういう時期に来とるから、まず体育館をしましょと。同時に、地域のスポーツとか施設も悪いところがあれば改善していきますよと、そういうふうに私は受け止めていますけど問題ないですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） はい、言われるとおりだと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員。

○委員（春口あかね君） 田中委員と同じなんですけど、同時並行というか、体育館だけを優先するというふうにちょっと聞こえてしまうので、一緒に考えていきますよというその理解でよければ進めていいのかなと私も思っているところです。

一つ確認したいのが、規模を考える上で、利用者数のことをもう一度確認したいなと思っているんですけど。スポーツ推進計画に農業者トレーニングセンターの利用率が書いてあるんですが、稼働率で、これ全面利用じゃないかなと思っているんですけど、これ、全面利用とかって出るんですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 安樂課長。

○文化・スポーツ振興課長（安樂鉄平君） 稼働率に関しましては、使い方はいろいろあります。基本的に全面、半面、それから4分の1の利用があります。それで総トータルの枠の中でどれだけ使われていたかというところになりますので、そういった形で算出しております。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員。

○委員（春口あかね君） この調査をしている間に、全面利用なのか、4分の1なのか、そ

れとも半分の利用なのかというのはちゃんと調査したほうがいいと思っています。それでどれぐらいのスペースが必要になってくるのかというのが分かってくると思うので。

ほかの自治体の事例も執行部が載せてくださったので見たんですけど、やっぱり大アリーナの利用率ってどの自治体もちよっとずつ下がっていつているので、やっぱり筑紫野市でも、トータルじゃなくて、全面利用なのかというのは、規模感を考える上で調査したほうがいいのかなと思いました。

○委員長（横尾秋洋君） 安樂課長。

○文化・スポーツ振興課長（安樂鉄平君） 今後、そこら辺も含めて検討していきたいというふうに思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 私のほうから聞きたいんですけど、この総合体育館を実際建設しようとして取り組んでも、早くて四、五年、遅くて五、六年かかってくるやろうと思うんだけど、その間に、先ほど辻本委員が言うように、地域のスポーツの充実、これをどう整備していくのか。安樂課長の範囲やろうと思うけど、何か考え方はありますか。

課長。

○文化・スポーツ振興課長（安樂鉄平君） まずは今ある施設の中で、ソフト面の強化ですね。スポーツを推進するスポーツ推進委員であったり、各地区にいます体育委員、こういった方を含めて、今ある施設の中で取組を充実していきたいと考えているところです。

○委員長（横尾秋洋君） それで、今、辻本委員が言われたような対応ができるかね。身近にできるようなスポーツをやっていく。総合体育館ができた後、それに取り組むということになれば、もう七、八年後という形になってしまうからね。その間の考え方を。

部長が手を挙げてますから、宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） まさにスポーツ推進計画に載っているんですけども、例えばコミュニティセンターの新設とか大規模改修時にコミュニティセンターの活用方法を考えていくし、例えば今の既存の施設についても、公共施設の長寿命化計画で古いところを改修しながら、そして大規模改修のときにはさらに皆さんの満足度を上げるための改修というのを、その都度同時並行的にやっていくということになろうかと思います。

あくまで体育館だけをやっているときにはほかは知らんというんじゃないくて、やっぱり必要なところは必要な手当てをしながら、検討を進めていくことになるんじゃないかなというふうに考えています。

○委員長（横尾秋洋君） 赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） 第1回のこの特別委員会のときにちょっと触れたんですけど、僕はちょっと認識が違っていですね、今飛ばしたページを見ていただきたいんですけど、同じくスポーツ推進計画の23ページですかね、左下を書いてある数字で23ページ。これはまず、新たに整備することが必要な公共スポーツ施設というのが、1,184人のアンケートで、1位体育館、2位プールとかいう話もありましたけど、1位が体育館で、3位にウォーキング・ランニングがありますと。やっぱり体育館を一番求めていると。

ちょっと一つ前のページに行ってください、恐らく辻本委員がおっしゃっているのは、この右下、前のページの22ページの6番とか、21ページの上の段、3番だと思うんですよ。一番左上の3番は、身近にスポーツ施設や運動ができる場所があるというのを求めている人が一番多いと、24.6%。右下の6番で言うと、誰もが気軽にスポーツができる広場を造ってほしいというのが20.7%。

最初に私が言ったのは、この右下の、特に6番の公共スポーツ施設に望むことなんですけど、これですね、下から3番目に、国際大会等の開催が可能となる大規模な施設を造ってほしいと、これは3.3%しかないじゃないですか。ただ、この項目全体の中に、いわゆる中規模とか、要は普通の規模の総合体育館を整備してほしいというアンケート項目がないので、僕は、今回総合体育館を造るという市の方針が決まったのって、この一番上にある、誰もが気軽にスポーツができる広場とか、手軽に利用できる施設というのも、この今回造る総合体育館に含んでいるという意味なのかなと。

そうするとですよ、地域スポーツという話が今出ていましたけど、それでもある体育館で、ここの項目にそういう項目がなかったから上に票が集まっていますけど、次のページで一番欲しいのは何かが体育館になっているので、結局、身近なスポーツが手軽にできる体育館というのを求めている市民が多いんじゃないかなと、僕はこのアンケートから読み取っていて。もちろん、コミセンとかそういうところできるといえるというのは、それにこしたことはないと思うんですけど、結局はそういった体育館であれば、このアンケートの市民のニーズを一番酌む結果になるんじゃないかなと僕は思っているんですよ。ということに関して、どういう市の見解か教えていただきたい。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 言われるとおり、誰もが気軽にスポーツできる広場を造ってほしいということです。体育館、体育館と言っていますから、私の説明の仕方も悪いんですけど、箱物をぽんと造るというイメージじゃなくて、やっぱり体育館を造るためには、

その周辺を一緒に整備しながら、市民が来てもらえる、ウォーキングができる、そういう施設も一緒に造っていくというのは可能じゃないかなと思います。ですから、その土地の中でどういう施設を集合させるのが一番いいのか、市民の方が喜ぶのか、使いやすいのか、その辺も含めて、建物、体育館ありきじゃなくて、体育館の周辺を含めて検討すべきじゃないかなというふうに思っております。

○委員長（横尾秋洋君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 赤司委員がどんなふうにこのアンケートを読み取ったかというのはちょっと計り知れないんですけども、やっぱり身近に地域でスポーツ、運動している人、公民館であるとかコミセンで、コミュニティでやっている人とかの様子を見ると、少なくともコミュニティで気軽に活動している人も、やはり自費で全部整備したりしているわけですね。卓球台の道具とかを買って、その保管もセンターにお願いして置かせてもらっているとか、傷つけたら自分たちでその修理代を出しながらやっているとかいうのを聞くと、やっぱり市民が誰でも気軽に卓球できるような場所が筑紫野市にはないということなんですよ。

公民館でやっているところを伺うと、本当に卓球しようと思ったら天井が低かったり後ろが狭かったりで、ちょっとうまくないと、ああいう規模ではもうみんな納得できないようになってくるんです。じゃあ、みんなが気軽にできる、今卓球と言いましたが、卓球とか気軽にできるものを本当に筑紫野市が、みんなができるようなぐらいのレベルで、コミュニティ単位で整備していくということがまずは必要なんじゃないかなと思うんですね。

さっき課長が答えられた、「スポーツ推進委員に聞きます」という話だったけど、スポーツ推進委員とか、体育館で今、団体としてスポーツしている人、競技スポーツとしてバドミントンであるとか卓球をしている人よりも、より地域で、公民館とかコミセン単位で楽しみながらやっている人の意見をほとんど聞いてはいないです、このアンケートの中で。その辺を拾うようにしないと、本当に市民全体が、どのような場所でどのようなスポーツを、運動のため、健康のためにしたいのかというのが見えないんじゃないかな。

結局それは、体育館を造ったら、そういう施設を造ったら、気軽に身近なところでスポーツができる施設を含むという意味はないんじゃないか。山家の人が、まあ山家は山家で卓球場があるからあれですけど、じゃあ御笠の人がわざわざ市の真ん中辺の体育館にやってきて卓球をやるかといったらそうじゃない。やっぱり地域のコミセンなりでやってみたりね、南の地区からわざわざ二日市まで出かけて行って卓球をするかという話です。それよりは、

やっぱり身近なところでできるものをまずは大事にしていんじゃないかなということで、さっきから確認しています。本当に並行してやっていくんですねというのは、そういう確認です。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 具体的に身近なところ、例えば各コミセンごとに何を整備していきますみたいなことはちょっと言えませんが、やっぱりその辺は地域の方の意見を聞きながらですね。地域の方のニーズがいっぱいあると思うんですよね。いろんな、私は卓球したい、私はバドミントン、ヨガと。だから、その辺は地域の皆さんの意見を聞きながらですね。もし改修して、みんながここで何をしたいんだということがはっきりするのであれば、当然協議していいんじゃないかなと思います。じゃあ、もうちょっとここをこうしたら使いやすくなるんじゃないのというような協議は当然ながらやっていいんだろうと思います。

ただ、全てのニーズに応えられるようになると、それはちょっと難くなるので、皆さんがちょっと広い場所でやろうやということであれば、今度造る体育館のほうで、みんなで集まろうやというような、時折、年に一遍はここでやろうやとか、そういうふうな使い分けというのはできるんじゃないかなというふうに思います。

○委員長（横尾秋洋君） 春口あかね委員。

○委員（春口あかね君） 「体育館が老朽化しているので建て直します」は私も分かるし、皆さんも分かっていると思うんです。体育館なしということにはできないと思うので。ただ、辻本委員がずっと言っているのは、生涯スポーツの在り方も一緒に考えてくださいねということで、体育館だけを造っていくとなると、その間の8年ぐらいかかると先ほどおっしゃいましたけど、体育館だけ造ってもスポーツをする人口が増えていくわけじゃないので、一緒に並行して考えていってくださいねということだと思うんですよね。

これからの人口とかを考えていくと、やっぱりそっちのほうの方が時代には合っていると思うんですよ、体育館なしにはできないですけど。となると、やっぱり医療費とかも上がっていますし、そういったことも全体的に考えながら、生涯の健康をどうやって考えていくのかという議論に、議論というか提案とか、そういうのを具体化してほしいなというふうに思うんですけれども。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） またスポーツ推進計画の中身になりますけど、生涯スポー

ツの推進という項目があります。この中で地域スポーツイベントを開催したり、ニューススポーツイベントをしたり、スポーツ教室をやったり、初心者スポーツをやったりと、いろんな形でやっぱりスポーツというのは充実させていこうという方針を持ちながらですね、当然これは別にやりませんというんじゃないくて、同時並行、体育館ばかりの話になっていますけども、計画に載っていることは同時並行で、検討できるものは検討していきたいと考えています。

○委員長（横尾秋洋君） 段下委員。

○委員（段下季一郎君） 今、辻本委員とか春口委員の質問に対しての回答の中で、コミュニティの意向といいますか、そういうのも把握するというお話があったと思うんですけど、何かこういうスポーツ推進計画について、コミュニティごとにこうやってやっていくんだみたいな、そういったスポーツ推進計画について、意見も聞くし、こうやって進めていこうと思っているというのをコミュニティの方々にそうやって説明というか、協働で進めていく、住民とですね、そういう機会を計画しているものとかは何かあるんですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 地域のスポーツイベントとしては毎年スポーツの日を基準として、各地域のコミュニティ運営協議会等がコミュニティの人たちと一緒にやっているというところがあります。その辺を充実させていく、もしくはまた新たに地域のほうから声が上がれば、そういう取組をやっていくというのは、この計画にも書いてあるところで取り組んでいくところかなと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 確かに言われるように、スポーツ推進計画いろいろできましたって、これは本当のことを言えば、体育館を造るためのスポーツ推進計画で、後から体育館を建てられないかんから、いろいろこういうのを造らんといかんよという部分ね、実質。きれいごとでずっと、今度並行してしていきますとか、できるわけないよね。農トレができたのが四十数年前、そして山家の運動公園、全部体育施設ができました、あれが二十数年前ね。このスポーツばかり、10万の市の財政で全部できんやない。そういうものよ。

だから、本当は体育館を造るためのスポーツ推進計画やった。スポーツ推進計画は早くからずっとしよって、体育館を建てようという結論じゃないたいね。体育館を建てないかんでやり直さないかん、確かに現状そうやもんな、分かつうよ。でも、並行してやっていきますということは、きれいごとで終わるんじゃないくて、言質か何かぴしつとしたものがで

きるのかどうか、約束事というのも含めて。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 現実味があるのかというところでございますけど、繰り返しのようになりますけど、既存スポーツ施設の整備のところでは、やっぱり何でもというのはできないので、老朽化したものについては大規模改修のときに合わせてとか、そういう表現にしております。まさに財政的には長寿命化計画、毎年見直して、古いところから何を先に、順番にやっていこうか、急ぐのは何なんだというのを点検しながらやってきておりますので、その中で、スポーツ施設についても当然、改修するならば使いやすいようにやっていく、利用しやすいように、満足度を上げるようにやっていく、そういうところは当然ながらやっていきたいと。

ですから、決してできないことを羅列しているんじゃないくて、当然ながら、書いているけどできなかったということはもしかしたらあるかもしれませんが、書いている以上、私たちは精いっぱい努力していきたいというふうに考えています。

○委員長（横尾秋洋君） 春口あかね委員。

○委員（春口あかね君） コミセン単位でスポーツできるようなところを考えてくださるという理解で大丈夫ですかね。となると、どんな機能がコミセン単位でも必要になってくるのかとか、体育館では何が必要なのかというのを考えないといけない段階になるかなと思うし、となると、サウンディング調査をしないことには中身が決まらないかなと思うので、進めてくださって、その上で私たちも、じゃあ何が必要なのかという検討が次に進められると思います。そういう理解でよろしいでしょうか。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 今のコミュニティセンターでも、ヨガとかあるいはダンスというのはできると思います。だから、今でも利用されているところでございます。ですからそういう機能を、今からコミュニティセンターを整備していくときには、その辺を十分踏まえて整備していくべきだろうというところです。ですから、今の施設の中で例えば、もうちょっとこういう機能がというところがあれば、それは相談に応じながら、財政状況も踏まえながら対応していくということになるんじゃないかなと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 大体、方向性としては……。

副委員長。

○副委員長（宮崎吉弘君） 先ほど宗貞部長が言われたのが、どうも引っかかっているんで

すけど、サウンディング調査をするというのは、要は候補、行政が考えている土地に対してサウンディング調査をすると。それで大まかな概算じゃないけど、そういうのを出示してもらうという発言をされました。私が思っていたのは、何か所かあって、それでサウンディング調査をやって積算するというふうに思っていたんですけど、どうも宗貞部長の話では、こちらが提案したところを絞って、そしてそこにターゲットを絞った上でサウンディング調査をやるというふうに聞こえたんですが、それで間違いないでしょうか。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 今考えているのは、絞ってというふうに考えています。候補地が幾つもあると、こっちの活用、こっちの活用ということが可能ならばそれもありますけれども、基本的にはやっぱり絞って、充実した意見をいただきたい、いろんな意見をいただきたい。「この場所ならどうですか」というような聞き方をしたいなというふうに思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 副委員長。

○副委員長（宮崎吉弘君） もう一ついいですかね。安楽課長が言われた、コミュニティで今、様々スポーツをされていますけど、やっぱりコミュニティ、コミュニティでされているスポーツ、例えば健康スポーツサポーター、ああいう方もいらっしゃると思いますので、多くのコミュニティでされている、例えば卓球とかされている人がいれば、そういう人たちのアンケートというか、声を聞くというのが非常に。先ほどから辻本委員が言われていますけども、そういうのに反映していただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（横尾秋洋君） 安楽課長。

○文化・スポーツ振興課長（安楽鉄平君） そこに関しては、新しい体育館を造る際ということですかね。（「並行と言われていたのでは」と呼ぶ者あり）ああ、地域ですね、はい。コミュニティのですね。基本的に、スポーツの推進に関しては様々あると思っています。先ほど出ましたが、スポーツの日ですね、ここで地域の皆さんでスポーツをやっているところもあります。もちろん日常的に活動している方もいらっしゃると思いますので、そこら辺には。もちろん予算を伴うものでありますので、意見がもし上がってくれば、検討させていただきたいと思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 辻本委員、どうぞ。（「私のほうから」と呼ぶ者あり）はい、部長。

○教育部長（濱崎博文君） ちょっと補足でございますけど、具体的にコミュニティのほうに、副委員長はアンケートかということですけど、アンケートを取るという計画はございま

せんけども、コミュニティを通してどのような運動が行われているか、これからどういう運動が必要かというのはしっかりと耳を傾けて、この計画を進めていく上で、地域のニーズというのはそういったところで把握をしていければと考えておるところでございます。

○委員長（横尾秋洋君） 副委員長。

○副委員長（宮崎吉弘君） 関連ですけど。というのが、例えば体育館を造ったとします。そうすると、先ほど辻本さんも言われましたけど、その中で、コミュニティの中、体育館で消化し切れない、試合ができないとかいうことは、仮に大きい体育館ができたときに、まあ大牟田もそうですけど、サブアリーナというところがあって、そこである程度の大会をやったりされているんですね。ですから、地域地域でされている健康サポーターにしても、いろんな利用者の話、状況を聞いたほうがいいと私は言っているんですよ。さっき部長が言われましたけど。そういうことです。

○委員長（横尾秋洋君） 大体意見が出尽くしたようですけど。執行部が今日考えているのは、どこに建てたらいいかというところの土地の提案までを出させてほしいということのようですが、それに対して異論はありませんか。

高原委員。

○委員（高原良視君） どの場所とは、提案を逆に受けないほうがいいと思います。それは執行部がやることやけん、ここでどこがいいという決定をするわけじゃないからですね。議員が聞いて、あちこちでしゃべって、要らぬことだと思いますからね、私は。ここでいいかという返答を求められるのか、ここでいいかという結論を、ここで議会としてオーケーというものなのか。

○委員長（横尾秋洋君） いや、それを今……。

○委員（高原良視君） いや、それは何のため、聞いてどうするね。なら違うことを、私たちが場所を、ここはいかんばいという話にはならんめえもん。

○委員長（横尾秋洋君） サウンディング調査をするための前提条件として、それを出したいと。

○委員（高原良視君） やけん、それは執行部がすることでしょう。

○委員長（横尾秋洋君） そしたら、場所は選定せんで、向こうから出してもらおう。

○委員（高原良視君） 場所は選定せんで。そげんしないとしようがないと私は思う。要らんこと聞いて、そこになって、最終的にまたもしもいろいろまとまらんときやら、あっても。

○委員長（横尾秋洋君） ちょっと意見を聞きたいと思います。

○委員（高原良視君） いろいろ意見があろうけん。

○委員（赤司祥一君） ここで聞かずにサウンディング調査をかけるということは、民間に委託するということになるわけじゃないですか。だから、民間に守秘義務みたいなのをもちろん持って。民間から漏れていくんだったら一緒かなみたいに思ったんですけど。すごい単純な質問ですみません。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 外に、公に出るというふうに考えていただいたほうがいいと思います、ここで市としては検討しているということが。

○委員長（横尾秋洋君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 総務のほうでも、サウンディング調査を行う旨の説明があっております。それは場所で言うとジャスコ跡地でありますけれども。なので、場所が分からんことにはちょっと私もイメージが湧かないですし、それは今後、建設費であるとか、今後の財政計画に反映されるのであれば、結局、民間に委ねたらもう出ていくものになるかなとは思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 段下委員。

○委員（段下季一郎君） これはあれなんですけど、公有地で広大なものといったら、カミリーヤの向かいの諸田グラウンドしか思いつかないんですけど、何かほかにどこかあるかなとか思いながらですね。けど、それは違うんですかね。私も全然、よく分かっていないからあれですけど。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員。

○委員（春口あかね君） まあ早々に分かるということなら提案していただいたら、公共交通とかも加味しながら考えれるので、考えやすいかなと思ってはいるんですけど。私の意見です。

○委員長（横尾秋洋君） 今、高原委員の言うように、土地を限定せずにサウンディング調査をやったほうがいいんじゃないかという案と、いや、もう土地を決めてサウンディング調査したほうがより現実的じゃないか、地域交通あたりもそれに巻き込まれるというような意見が今出てきました。

前田委員。

○委員（前田倫宏君） あくまでも調査であって、議会がこの調査の場所が特定されたと認めたわけではないと思うんですよね。今からの手続上、まずは調査をせないかんということ

であって。また、その予算が増大になれば、もちろん議会としてもその財政計画の中でやらないかとか様々意見が出てくるとは思っていますので、まずは出してもらったらいいいんじゃないですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 赤司祥一委員は。

○委員（赤司祥一君） 今、委員長がまとめていただいたのは、高原委員は……。

○委員長（横尾秋洋君） 場所を選定しなくてサウンディング調査して……。

○委員（赤司祥一君） でも、サウンディング調査をかけるということは、土地を特定して民間に言うということですよ。（「さっき私が言ったやん」と呼ぶ者あり）そうですね。ということは、もう要は出るということになるので、ここで出してもらっても一緒かなというふうに僕は思います。

○委員長（横尾秋洋君） 一人ずつ意見を言って。坂口委員は。

○委員（坂口勝彦君） 皆さん、いろいろ意見があっているんですけど、あくまで執行部が提案したことに関して、私たちはそれに関していろいろ議論をやっていくというふうな立場ですので、別に言われたからといって、案ですからね、ここで出されてもいいんじゃないかなと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 以下同文であります。

○委員長（横尾秋洋君） 議長の立場としては言いにくいかもしれませんが、原口議員として。

○議長（原口政信君） 高原さんが言われるのも分かるんですけど、ただ、これはやっぱり執行部から提案してもらわんことには前に進まないなという気がしています。それとあと、コミュニティとかそういうところはまた別問題で、いろんなコミュニティごとに体育推進委員さんもおられるから活発に行われておりますのでですね。

ですから、あくまでも今、執行部が考えていることを提案をしてもらっても、これを皆さんで議論するという流れになるわけで、そこで確定というわけではありませんで、私も提案してもらったほうがいいというふうに考えています。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員は。

○委員（春口あかね君） 先ほど言ったとおりでございます。

○委員長（横尾秋洋君） 段下委員。

○委員（段下季一郎君） 私は、公有地ってここじゃないかなと勝手に思っているところがあるんですけど、私も提案がないことには話が進まないのかなとも思ったりもするんです

けど、やっぱり規模感とかそういう具体的な話をするためにも、そういうものが必要じゃないかなとは思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 私も、この議会の特別委員会の中で今日まとめられて、意見交換した内容で、どういうものを想定するかということをみんなで考えた上で、じゃあ実際に筑紫野市内で建てるとしたらどの辺りの土地が有効なのかとか、みんなのアクセスがいいのかなということも考えた上で、この辺りがいいんじゃないかなということを議会として決めたら一番いいなと思っていたんですけど、それはもう抜きにしても、執行部から報告なしでサウンディング調査に付されたとして、その話が周りから、後から聞くのであれば、もう先に聞いてとっても構わないなと思っています。

でも最終的に、やっぱり議会が議会として、市民の要望でどの辺りがいいのかということを考えられるような議論がもうちょっとあったらいいのかなとは思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 宮崎副委員長。

○副委員長（宮崎吉弘君） 高原さんも言われたように、やっぱりある程度、何か所かサウンディングを。まあお金がかかることでしょうけど、どうせコンサルに依頼されるんでしょうから。ターゲットを絞ってから、そこでサウンディング調査するというのは、ちょっと私はいかがなものなのかなと思っています。調査をかけるにしてもですね。サウンディング調査をかけるにしても何か所かあったほうがいいんじゃないかなと思いますけど。

○委員長（横尾秋洋君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） まずは何事も、やっぱり聞かんことには進まないと思うんですね。なので聞いた上で。もちろん宮崎委員の言っていることは分かります。私もやっぱり一つに絞ってというよりは選択肢を増やしたほうがいいんじゃないかという思いはあるんですけど、その意見にしても一回聞いて私だったら言えば、ここはふさわしくないと、この委員会で認められたら、それはそれで私もいいと思っているので。

まずは聞かんことには、本当に私も判断を今できないかなと思っているので、まずはその材料というか、考えてあることを吐き出してもらって、その中で私たちがいろんな意見を言う分はいいかなと私は思っています。

○委員長（横尾秋洋君） 大体、皆さんの意見は大半が場所を提示してもらったほうが検討しやすいなというような意見のようです。それでまとめていいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（横尾秋洋君）　じゃあ、執行部のほうから、どういうことを考えてあるのか、ちょっと説明していただけますか。（「委員長、一旦休憩を。準備します」と呼ぶ者あり）しばらく休憩、資料の準備ね。

じゃあ、3時まで休憩します。

休憩　午後2時52分

再開　午後3時05分

○委員長（横尾秋洋君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

何か資料があれば配付していただけますか。ああ、タブレットでね。

では、説明をお願いします。

宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君）　まずは1ページから順次説明を行いたいと思います。

まず1ページ目ですけども、これにつきましては4月22日にお示しした資料でございます。①の趣旨・目的・経緯等で、計画をつくってきたというお話を差し上げました。本日は②番、③番、用地選定の基本的な考え方、そして用地を抽出してその用地を評価するというところの資料でございます。その後、先ほどから話が出ておりますけど、サウンディング調査をしたいと。その結果、⑤で事業手法とか建設費等を想定して、財政面での検証を行うと。求められる機能とか維持管理・運営の方法の考え方あたりも整理していきます。それをもって、⑥基本計画（案）として取りまとめて、⑦でパブリックコメントを経て、基本計画という形でまとめていきたいというものでございます。

それでは、具体的な中身でございます。次のページでございます。

まず、用地選定の基本的な考え方でございます。いろいろ書いておりますけど、まず矢印の一つ目です。財政負担軽減のため、原則として新たな用地購入を伴わないと。要は、市有地の中で検討したいというもの。

それから二つ目、市民の要望に応えるため、また、資材が高騰する中、長期化による財政への影響を軽減するため、スポーツ推進計画の中で一定の方針を示したいというところ。2025年から2029年の計画の中で一定の方向性を示したいというところです。

それから三つ目です。これも先ほど来話が出ておりますけども、建設候補地については、まずは農業者トレーニングセンターの現地での建て替えが考えられるけども、活用が可能

な土地については、次の要件で抽出しますと。用地面積が1ヘクタール（1万平米）以上、建物の建築面積が1万平米ということでありましたので、1万平米以上の市の土地というのを考えたいと。それから、市民が利用しやすいように交通の利便性がいいこと、これも選定の要件にしたいと。それから、住宅地等から適切な距離があって、周辺環境との調和が取れること。

最後に、土地を抽出後、それぞれの用地について、敷地の要件、道路・交通、防災・安全、周辺環境、その他の土地利用上の課題、この項目について評価を行っていきたいということで、この要件に当てはまる1ヘクタール以上の土地を四つ抽出しております。

まずは農業者トレーニングセンター、現地での建て替えですね。面積としては約2.8ヘクタールあります。現状としては、体育館、グラウンドとして利用していただいています。体育館が老朽化しており、大規模改修が必要になってきますと。大会会場としては狭い、そして空調もないという状況です。

それから二つ目のカミーリヤですが、ここは3.6ヘクタールあります。後ほど説明しますが、カミーリヤの部分が1.4ヘクタールほどありますので、実質2.2ヘクタール程度の面積活用ができるということです。ただ、カミーリヤの裏側、南側用地については、ゲートボールで今利用してありますと。それから、カミーリヤ南側の端にシルバー人材センターとかほへみタウンが併設されていますという状況です。

上古賀グラウンド、これは職員駐車場を含んでですけども、ここも合わせれば1.3ヘクタールありますと。多目的グラウンドとして今利用されています。たまに文化会館の駐車場として利用されることもあります。

1ヘクタール以上ということで、下見池、これは筑紫高校のグラウンドとして使っていますが、ここが3.1ヘクタールほどありますと。

市の土地で1ヘクタール以上となれば、この辺じゃないかというところです。

次のページから、その4か所についての現状の説明をしております。

まずは農業者トレーニングセンターです。市街化調整区域で約2.8ヘクタールあります。桜台駅から9分、筑紫駅から18分ということで、駅から非常に近いという状況です。

それからカミーリヤですが、準工業地域で、市街化区域で約3.6ヘクタールあります。カミーリヤの1.4ヘクタールも含んで3.6ヘクタールです。桜台駅から15分、筑紫駅から16分ぐらいの土地にあります。

次です。上古賀グラウンド、これは地図で示していますように、裏側の駐車場を含んで1.3

ヘクタールあります。駐車場部分は0.4ヘクタールありますというところです。JR二日市駅から16分ほどかかりますというところです。

最後に、下見池です。3.1ヘクタールあるんですけども、筑紫駅から歩いて18分ぐらい、ちょっと遠い場所にあります。

こういう現状です。このそれぞれの4か所を評価したのが次のページからになります。

まず、農業者トレーニングセンターです。

面積は先ほど言いましたけど2.8ヘクタールあります。ただ、ここの2.2ヘクタールは市有地ですけども、借地として0.6ヘクタール、6,000平米ほどは借地部分があって、2.8ヘクタールです。ここに新たな体育館と既存広場の併用は困難ということで書いております。今見て分かりますように、ぎりぎり建っています、農業者トレーニングセンターがですね。ですから、あれを広げようとするとうグラウンドのほうにどうしても影響が出てしまう状況であろうというところです。

それから道路・交通環境としては、道路要件、鉄道要件は良好です。コミバスの停留所もあります。

それから防災・安全性については、ハザードマップの洪水浸水想定区域、L1・L2ありますけども、その区域外になっているので大丈夫です。

周辺環境としては、現在稼働中の施設であると。

土地利用上の課題としては、稼働中の施設であるため、もし建て替えということになれば、施設利用の制限が一定期間かかりますというような評価にしています。

それから2番目、カミーリヤでございます。

敷地要件としては3.6ヘクタール、カミーリヤ等の施設、これはほほえみタウンを含んで1.4ヘクタールあります。大体利用できる土地というのは、概略2.2ヘクタールぐらいは利用できるというところです。ここに新たな総合体育館の建設は可能じゃないかなというふうに判断をしているというところです。

道路・交通要件です。道路は片側2車線の主要地方道筑紫野久留米線に隣接するため、良好だと。桜台駅、筑紫駅から徒歩圏内で行けます。コミュニティバス等の南側の交通拠点となっており、バス関係もいいですよというところです。

防災・安全性です。ハザードマップの洪水浸水想定区域のL1は全然大丈夫なんですが、もう一つのL2が一部区域になっているという課題があります。米印を見てくださいと、米印の1番ですね、浸水想定はL1・L2は、水防法に基づき、降雨規模の違いで浸水

範囲あるいは深さを示す指標です。L 1 は発生頻度が高い一般的な洪水、L 2 は1,000年に1度程度と言われるような過去最大クラスの洪水とされています。このL 2 に一部該当しています、道路部分がですね。ただ、特にカミーリヤは福祉避難所として機能していること、また、新たな体育館は農業者トレーニングセンター同様に、大規模地震などの長期的な災害対応時の避難所として想定されており、豪雨発生中の避難というのは想定しておりませんので、防災・安全上には問題ないと判断できるというものでございます。

これは資料の一番最後につけております。一番最後のページを見ていただきますと、真ん中にカミーリヤがだいたい色であります。白のところは雨が降っても影響がないところですよ。緑のところは50センチ程度、50センチ未満つかるでしょうと、あふれてきますよというところですよ。ですからL 1 については問題はないんですけども、L 2、その下になりますと、1,000年規模の雨が降りますと道路部分が赤色になっています。この赤色というのは3メートル未満の区域になると。ただ、カミーリヤの南側については若干地上げをすれば、ここは建物自体は浸水することはないだろうというところでございます。

戻りまして、カミーリヤの周辺環境でございます。カミーリヤの周辺環境は特に民家もなく良好だと。それからカミーリヤと体育館の相乗効果、これも期待できるんじゃないかというところですよ。

土地利用上の課題ですが、ゲートボール場で利用されている多目的グラウンドの代替が必要です。それから駐車場、これは新たな駐車場が必要です。この二つについて、まず代替施設については、カミーリヤの施設内で違う場所に確保することが可能じゃないかと。駐車場については立体駐車場が必要になるというところでございます。

続いて、③上古賀グラウンドでございます。

ここは約1.3ヘクタールあります。0.4ヘクタールの職員駐車場があります。ここは当該施設のみではちょっと狭いんじゃないかというところですよ。

イベント開催時には前面道路の渋滞も懸念されます。JR二日市駅からは歩いて来れます。

防災・安全性については問題はありません。

周辺環境については、周辺に民家が多く、文化会館に隣接するが、イベント等の同時開催が難しいだろうと、駐車場がないだろうというところですよ。

それから土地利用の課題としては、野球等で利用されていますので、多目的グラウンドの代替が必要になってきます。また、新たな駐車場も必要になってきます。建物を上に上げる

必要が出てきますというところです。

下見池でございます。

最後でございますが、面積は3.1ヘクタール、新たな総合体育館の建設は可能です。

道路環境としては、県道に接しておらず、進入道路の拡張が必要になってきます。それから、筑紫駅から若干遠うございます。

ハザードマップ上は問題ございません。

周辺環境としては、当該敷地の一部がＪＲ筑豊線で区切られていますけども、一部は民家にも隣接していますと。

土地利用の課題としては、筑紫高校野球部、それからハンドボール練習の代替が必要になってきますと。市境に位置していますので、利便性が決まっているとは言えないんじゃないかと。当然ながら、こことするならば野球場の代替地が必要になりますけども、難しいんじゃないかという評価をしています。

それを受けての、次のページの総合評価でございます。

令和7年3月に推進計画、11月に基本構想を策定して、今回は場所について、敷地要件、道路、防災、周辺環境等々について調査をやって比較検討したけども、やはりカミーリヤがいいんじゃないかと、最適じゃないかと、カミーリヤしか考えられないんじゃないかというふうな結論に達しています。ただし、事業推進や総合的なスポーツを推進する観点から、次のことに留意して今後の検討を進めたらどうかというものです。

まず一つ目が、農業者トレーニングセンターとの一体利用です。カミーリヤと農業者トレーニングセンターは約650メートルの距離にありますので、新たな総合体育館の整備と一体的に活用を検討したらどうかと。

なお、農業者トレーニングセンターに併設する勤青ホームは現状を維持したいと。ただし、将来的に老朽化対策等を行う場合には移設を含めて検討を行うと。

それから二つ目に、カミーリヤに隣接するシルバー人材センターとかほほえみタウン、これについては現状を維持したいと。ただ将来的には、やっぱりここを福祉・スポーツゾーンとして機能が発揮できるように検討したらどうかと。

それから3番目に、カミーリヤ施設利用者への配慮でございます。新たな総合体育館整備に当たっては、カミーリヤとの連携を視野に土地利用の検討を行うけども、カミーリヤに支障がないように配慮を行っていききたいと。

それから、新たな総合体育館の周辺整備ということで、現在のカミーリヤ多目的グラウン

ドの代替地は、カミーリヤの敷地の中で移設を検討したらどうかと。そして新たに立体駐車場を整備して、必要な駐車台数を確保したらどうかということです。

あくまでこれはイメージですけども、農トレとカミーリヤ、それから新たな体育館がここに位置することで、ここを、ゾーニングの話も先ほど出しましたが、ゾーン的に検討したらどうかと。この右下の図はあくまでも想定、イメージでございますけれども、体育館が左側にあって、多目的グラウンドがあって、公園があって、駐車場があってと、このぐらいの配置はできるんじゃないかなというところでございます。

次のページになりますけども、サウンディング調査の話でございます。もしこの場所でサウンディング調査をするとすれば、こういうことを聞くことになりますということで、改めて書かせていただいています。

まず1番目、施設整備・機能に関するアイデアをいただくと。農トレとカミーリヤの効率的な連携、活用計画、施設の配置計画、こういうものを提案いただけないかというのが一つ目。それから二つ目に、アリーナや武道場の適正な規模として、レイアウトの計画、コンサートとかイベントの活用ができるのかどうかとか、レイアウトについての計画。それから、防災機能、防災時の避難所として機能の提案を受けたい。その他、にぎわいの創出とか子育て支援施設等の附帯施設、こんな施設を一緒にしたらどうかと、こういうものの提案を受けたいと。

二つ目に、事業費関連ですね。まずは事業手法、どういう事業手法がいいですかと。分離発注方式、これは今までどおり設計を出して、工事を出してというようなやり方。それか設計施工一括発注、これは庁舎でやったときのやり方。あるいはリース、PFI、民間活力導入の提案、こういうものを受けたいと。それから二つ目に、本事業で想定される事業費、この事業手法でいくならば幾らぐらいかかるかというところ、造成も含んでというところでございます。その次に、本事業で想定される維持管理・運営費用とその適正化策。指定管理者制度を活用したら安くなるのかどうなのかとか、そういうふうな管理の方法。それから建設、運営に係る財源、ネーミングライツの話もありましたが、そういう財源がないかどうか提案いただきたいと。環境への配慮。

最後に、スケジュールの提案ですね。どういうスケジュールでいくのが一番いいのかというようなところ。

こういうことをサウンディング調査でお聞きしたいというところでございます。

説明は以上でございます。

○委員長（横尾秋洋君） 今説明を受けましたけど、私はこの説明を今受けた程度で収めておいて、次回7月にもう一回、これを議員間だけでやるか、執行部を呼んでするかという形で、一応の方向性を出してみたらどうかというふうな思いを今持っているところです。何か皆さん方からそれに対して意見があれば述べてほしいなど。もう一回この提案を受けたところで議員間討議する、いや、もうそれはいいから、執行部から受けて、皆さん方で持ち帰って、質問事項をまとめて次の会議にしようとか、いろいろ意見があるかと思います。

今、坂口委員が手を挙げましたので、坂口委員、どうぞ。

○委員（坂口勝彦君） 説明ありがとうございます。先ほどから説明を受けて具体的にを見せてもらえると、すごく分かりやすいというのが私の感想でした。今、委員長が言われたように、議員でもう一回時間を持って協議するのがいいかと思いました。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 春口あかね議員がうなずいていますけど、それでいいですか。

赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） ちょっと念のため確認なんですけど、サウンディング調査は、この四つある案のうちのカミーリヤだけに対してかけるということで間違いないですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 私たちはそう思っています。というのが、先ほど農トレの問題点として、どうしてもグラウンド側に1階面積が、正式な大会ができるアリーナを造る関係で、必ず1階部分が広がってきます。広がることによってグラウンドに影響が出てきます。となると、じゃあグラウンドをどうするのという話が次に出てくるものですから、やっぱり消去法として、もうここしかないんじゃないかなというふうに思っているところでございます。ですから、ここの1か所で意見を、サウンディング調査をかけたいというふうに考えております。

○委員長（横尾秋洋君） ほかに意見ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（横尾秋洋君） じゃあ、次は議員間討議をやりますかね。それか、執行部も来てもらってやりますか。何かどっちかの意見があったら。

○委員（田中 允君） サウンド何とかが出てきてからでいいですか。調査が出てきて、それから集まってのほうは効果的だと思います。

○委員長（横尾秋洋君） そしたら今の田中委員の意見は、執行部が言うところカミーリヤの

ほうに建てて、農トレと一体化で使うということで、サウンディング調査を入れてもらって、今からすると12月ぐらいの議会に委員会でかけてもらうというものになります。

高原委員。

○委員（高原良視君） 私は、最適地はカミーリヤの前の県有地、あれは下水道の分ですが、下水道の分も人口がずっと減って、最終的にあれはもう何も使わない中継地か何かの一つに、それだけになるんじゃないかなろうかと。今の政治力では買うのは非常に難しいというのは十分承知しておりますが、私はあの土地が一番最適じゃないかなというふうに思います。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 一番最初の用地選定の要件として、市の土地の中でという条件を踏まえるようになります。まあ県有地でも民有地でも、ほかにいい場所がというところはあろうかと思えますけれども、あくまで市の土地の中で今回は検討したいと。ただ将来的には、非常に魅力的な土地ですので、あそこも含めた一体利用が可能ならば、その辺は期待はしたいなというふうに思っております。

○委員（高原良視君） カミーリヤの横は、いろいろ活用計画が市としてできると思う。

○委員（田中 允君） 慌てんでも、よそに行く当てはないけんな、あの土地が。逃げたりせんから。

○委員（高原良視君） いやいや、カミーリヤの土地利用。

○委員（田中 允君） いやいや、あのグラウンドは逃げたりせんやん。

○委員長（横尾秋洋君） ほかに何か意見ありませんか。（「それ以外でもいいですかね、一言」と呼ぶ者あり）議題はこの分ですよ。（「ならいいです。ちょっと後で一言言わせていただきます」と呼ぶ者あり）

春口委員。

○委員（春口あかね君） 今、高原委員が言われた場所は、広さはどれぐらいになるんですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 約2.3ヘクタール程度です。

○委員長（横尾秋洋君） 農トレやろ。諸田グラウンド。

○委員（田中 允君） 諸田グラウンドがあるところの面積。

○委員（高原良視君） カミーリヤの前やろ。十分やろ。あそこの前、カミーリヤの前。

○委員長（横尾秋洋君） 県有地。

○委員（高原良視君） 県有地。

○委員長（横尾秋洋君） あれは2.3ヘクタール以上あるやろ。そんなもん。

○委員（田中 允君） その前にあるポンプ場を含まなければですね。

○委員（高原良視君） うん、ポンプ場を含まん。ポンプ場やけんね。

○委員長（横尾秋洋君） 例の防災訓練をしているあの広場、あそこだけ。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） あそこだけじゃないんですけど。活用されているグラウンドのところですよ。

○委員長（横尾秋洋君） あそこ、相当面積あると思うけどな。4ヘクタールぐらいあるんじゃない。（「言いようけん間違いない」と呼ぶ者あり）いやいや、それは手前側と奥側と土地があるから。

○文化・スポーツ振興課長（安樂鉄平君） あくまで今活用している、奥のグラウンドがあるじゃないですか。あそこの部分ですね。

○委員長（横尾秋洋君） 手前は。

○文化・スポーツ振興課長（安樂鉄平君） 手前は除いてです。

○委員（高原良視君） なら、まだいっぱいある。

○委員長（横尾秋洋君） うん、そうせんと、あそこを通らんことには進入道路を取れんやろうもん。

○委員（田中 允君） 手前は使えんちゃろ、今言ったごと。

○委員（高原良視君） いや、買えば自由に使える。

○委員（田中 允君） 買えばって、向こうもこっちも県のとやろうもん。委員長、まとめて。

○委員長（横尾秋洋君） いや、今ぽっと出てきよるもんやけんさ、一応、皆さん方の頭の中に入ったかなと思って。諸田グラウンド、防災訓練をしょったり、朝倉の大水害が起こったときに全国から来た消防自動車全部あそこに待機して、あれから災害派遣されよったから、すごい面積がありますよね。

○委員（田中 允君） 救急ヘリコプターはカミーリヤやったろ。カミーリヤが救急のヘリコプター待機地やったろ。それは大丈夫かな。どこか残しとかないかんもんな。こっちが駄目なら、諸田グラウンドに持っていったりして、逆にね。そうやろ。

○委員長（横尾秋洋君） しかし、そこまで含めるとまた話が変わってくるやろうから、取りあえずカミーリヤと農トレの有効利用という形でサウンディング調査にかける。これで、

12月ぐらいまでにどういう結果が出てくるか、それを説明してもらって、それで問題があるとなれば、諸田グラウンドを県と交渉して。

○委員（高原良視君） 今の分で幾らぐらいになるかによる。県有地、面積を掛けて、一般的に調整区域やんな。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 前回出したのが市街化区域の価格の平均でしたので、市街化区域で12万でしたけども、調整区域で幾らかというのは今は調べておりません。申し訳ありません。

○委員（高原良視君） それで減額でもしてもらえば。

○委員長（横尾秋洋君） じゃあ、宗貞部長、その土地の今の意見はどう判断する。部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 私どもとしては、最初にお示ししましたスケジュールで、目的をお話しさせていただいて、用地の選定をさせていただいて、次はサウンディング調査でどういう中身が出てくるのかというのを精査させていただいて、また、その段階で議会には報告する予定としております。

○委員長（横尾秋洋君） だから、今部長が言ったようにサウンディング調査したその結果を見て、どう結果が出るかは分らんけど、その結果を見て、いや、やっぱりそれよりも諸田グラウンドを何とか交渉したほうがええよという話になってくるのかどうか。そこまでなってくると、またちょっと話が変わってくるかもしれんけど。

サウンディング調査結果を待ちますかね。

○委員（高原良視君） いや、諸田もあまり変わらんよな、あのグラウンドもね。調査して事業費やら求めてね。用地費が違うだけのことであってね。

○委員（田中 允君） やっぱり駐車場にしたほうがいいかな。

○委員長（横尾秋洋君） 部長、そしたら、あそこだったら立体駐車場にせんで、平面の駐車場ができるような感じになってくるし。

○委員（田中 允君） 施設はそれだけで、駐車場は向こうの諸田グラウンドでもいい。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 先ほど申し上げましたように、諸田グラウンドは県有地でございますので、もし調査をすとなれば、県の許可なり承諾を得た上でやる必要が出てこようかと思えます。ただ、そこについてはあくまで市の土地の中で私どもとしてはやりたい、県も含めて民有地は検討の中には入れていないという状況でございます。市としては、する予定はないというところで御理解いただきたいと思えます。

○委員長（横尾秋洋君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 一大決断のときやもんね。将来的に今、あそこのカミーリヤがあって、裏があって、今、空白地帯が何ヘクタールかあるけど、やっぱり財産として。グラウンドがあるから、そこはやっぱり、しっかり調査しながら県と交渉しながらするべきやないかいな。

○委員長（横尾秋洋君） あの土地だったら、そのＪＴ跡地に匹敵するぐらいあって、辻本委員が言いよった、あそこにちょっと公園を造ったり遊歩道を造ったりって、あれは面積は十分できるけど、問題は県との交渉があるもんだから、それはどうなるかというところで。赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） 今、高原委員がおっしゃったように、まずカミーリヤだけサウンディング調査をかけるのと、カミーリヤと諸田グラウンド、両方サウンディング調査をかけるのとでは、何ていうんでしょう、時間とか、どれぐらいハードルが上がるんですかね。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 時間はそんなに変わらないんじゃないかなと思うんですが、今申し上げているのは、土地所有者の承諾を得てやるべきだろうところで、今の市としてはその承諾を得てまでやる予定にはしておりませんというところでございます。

○委員長（横尾秋洋君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 一つお聞きしますが、カミーリヤの前のグラウンドと、調査してからあまり変わらんもんね。内容的に。実質的な成果品は。事業費が違っただけで。よほど、今、社協でいろいろ、お年寄りが通んしゃあ道やらが、グラウンドで通る分が多くなったら、非常にまた迷惑をかけるという部分のほうがあると思う。

○委員（田中 允君） 駐車場だけあそこに持っていく案もあるけんな。

○委員長（横尾秋洋君） 宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） １点、違いといいますと、諸田グラウンドは調整区域でございます。カミーリヤは市街化区域でございます。ですので、社会資本総合整備交付金の対象になるのは市街化区域になりますので、調整区域として補助金の取りにくさというのは出てくるんじゃないかなというふうなことは思います。

○委員（高原良視君） 別の補助金で検討してもらわないかん。

○委員長（横尾秋洋君） また堂々巡りになってしまうので、現在のカミーリヤのところと農トレを一体化したところをサウンディング調査をかけていただいて、片側じゃ県有地が

あるということをにらみながら、県との交渉をどうかということをちょっとお願いしたいなと思います。大体それでいいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（横尾秋洋君） まあ議会としては、県有地もちょっと大変だろうけど頭に入れて、県と交渉に入ってほしいなと、そういうふうに思います。

じゃあ、次はどうします。

その他、田中委員。

○委員（田中 允君） さっきから、コミュニティセンターのスポーツ、スポーツと言っていますけど、小地区公民館が市内だけでも80以上ありますよね。行政区が81か82やったよね。原田とか3か所もあるし、何か所も小地区公民館があると思います。だから、そういうところにバドミントンとか。卓球は間違いなくできる、バドミントンができるような場所もあるから、何もコミュニティセンター、コミュニティセンターでこだわる必要はなく、総合的にもうちょっと視野を広げて検討すべきだと思います、地域地域のスポーツというのはね。そこらあたりも一つの提案で受け止めとってください。

○委員長（横尾秋洋君） じゃあ、どうしますかね。サウンディング調査が終わって会議を開くか、その前に1回やるか。（「途中経過でも」と呼ぶ者あり）

辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 先ほどまでの議論の中では、まず場所を聞かんことにはほかのことを考えられないという話だったので、今、場所のことに来たと。いよいよ場所が決まったわけだから、じゃあどういったものになるのかという話は、やっぱりみんなで決めたほうがいいんじゃないですかね。だから、サウンディング調査の結果を聞くまでもなく、この辺ではこういう土地になりそうだからということで、みんなの、どういう体育館、どういう体育施設であればいいのかというのを、次の話で決めていっていいんじゃないですか。

○委員長（横尾秋洋君） 今、そういう辻本委員の意見がありました。

田中委員。

○委員（田中 允君） 今、計画がありますよね、あそこのグラウンド、県の流域下水の中であるけど、これは絶対ずっと今後県は使用しないということはあるんですかね。そこらあたり分らんから何か御存じないかなと思って。

○委員長（横尾秋洋君） 委員長としては全くそういうことは知識がありませんので、執行部に調査してもらう以外はありません。

○委員（田中 允君） はい。

○委員長（横尾秋洋君） 赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） 次回いつやるのかという話だと思うんですけど、辻本委員がおっしゃったように、僕も、そもそも今、諸田グラウンドの案まで上がってきて、サウンディングまで終わって、また諸田グラウンドとなると、もうどんどん先になっちゃうので、今、具体的なカミーリヤという市の有力候補が出てきたから、そこについてどうしていくかという議論と、あと、県とかにどう掛け合って諸田グラウンドも候補に入れるのかどうかという議論は、逆に早急にしたほうがいいんじゃないかなと思っているので、なるべく早く設けたほうがいいんじゃないかなと思います。

○委員長（横尾秋洋君） ちょっと事務局、7月の13、14ぐらいで、どうですかね、皆さん。ちょっと調整、日程を見てください。（「議員だけですか」と呼ぶ者あり）うん、議員だけ。（「13日ですか」と呼ぶ者あり）ええ、13日か14日か。

○委員（高原良視君） 13日は昼から開発公社の理事会があります、2時から。それだけです。

○委員長（横尾秋洋君） そしたら、13日の午前中、10時からいいですかね。7月13日。

○委員（宮崎吉弘君） ああ、私、監査があります。

○委員長（横尾秋洋君） 監査。何時から。朝。

○委員（宮崎吉弘君） 朝、午前中です。

○委員長（横尾秋洋君） 14日は。

○委員（辻本美恵子君） 14日は駄目ですよ。

○委員長（横尾秋洋君） 15日は。（「15日も監査」と呼ぶ者あり）16日は。

○委員（高原良視君） リハーサルが終わってすればいいやん。8日のリハーサルが終わって。

○委員長（横尾秋洋君） リハーサルは何時からするって。

午前10時から。なら、11時から。終わり次第。

○議会事務局係長（本田潤平君） 委員長、8日はどういったことをされるんですか。

○委員長（横尾秋洋君） だから、今提案があったところと、辻本さんが言ったように、どういう施設をどう思っとるのか。まあ1時間程度で、議員だけで。

○副委員長（宮崎吉弘君） まあ、面積は出ているとしても、サウンディングをやっていませんからね。

○委員長（横尾秋洋君） だから、それは議員だけで委員会、協議会をやって、それはどう
いう意見がまとまったかというのは、また正副委員長に任せてもろうて、宗貞部長のほうと
意見交換しましょう。そして、次はもう9月議会かな。しかし、サウンディングは大体、入っ
てもらったっていいと思うんやけど。

○副委員長（宮崎吉弘君） サウンディングだけじゃないですね。サウンディングにま
つわることも……。

○委員長（横尾秋洋君） 特に今は資材関係がこういう情勢やから、今の段階で見積り金額
なんか出ないよね。それは、物価が安定するかどうか知らんばってん、安定したときにやれ
ばいいのかなと。

○議長（原口政信君） ナフサの関係で、入札が今、公共事業はない、ゼロ件ですね。だか
ら、あと1年ぐらい。

○委員長（横尾秋洋君） 昨日、赤澤経済産業大臣の話を聞いたら、日本は備蓄が8か月し
とるからまだ大丈夫よと、外国は言いよるけどって、そんなこと言いんしゃったけど。

じゃあ、今日は以上で終わって、次回は7月8日に、子ども議会のためのリハーサルが終
わった後、議員間協議を行います。そのために皆さん方は思いを自分なりにまとめておいて。

○議会事務局係長（本田潤平君） 確認ですけども、執行部はもうサウンディング調査を始
めていいということでもいいんですか。

○委員長（横尾秋洋君） はい。

○議会事務局係長（本田潤平君） 分かりました。

○副委員長（宮崎吉弘君） 執行部の提案でしょう。（「はい」と呼ぶ者あり）提案やから。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 何かこっちからまた報告することがあれば、またその都度
相談させていただきます。

○委員長（横尾秋洋君） 延々と時間が過ぎましたが、以上で第4回目の特別委員会を
終了いたします。お疲れさまでした。

閉会 午後3時44分